



のりしろ

先日、銃剣道の体験授業が行われた。

銃剣といえば、「のらくろ」の漫画を思い出す。

銃剣持って軍で奮闘する黒い犬の話。

だが、そんな昭和の漫画を知る人は少ない。

というか、今日は「のりしろ」の話を書こうと思ったわけで、「のらくろ」は関係ない。



「のりしろ」

紙工作、印刷物の製本、箱の製造などで、2つの部材を接着・固定するために設けられる、のりを塗布する余白部分。構造的な強度を確保し、製品の分離や耐久性低下を防ぐための必須のスペースであり、通常、製品の端に設けられる。AIによる概要

先週から雪の日が多い。

当然、各家の除雪作業もあるが、学校の駐車場や玄関前等の除雪も必要となってくる。

そんな中、野球部や男子ハンドボール部の生徒がボランティアで除雪を行ってくれている。

と同時に、多くの先生方も一緒になって汗を流してくれている。

市内の先生方だけではなく、市外（隣の市だけではなく、もっと遠い市）の先生方も。

今朝も本当にありがとうございました。

除雪作業は校務分掌にあてられている業務ではない。

ただし、誰も除雪を行わなかったら、職員も来校者もみんなが困る。

いわば、学校の通常の活動がスムーズに行われるように繋いでくれる業務。

つまり、「のりしろ」的な業務である。

学校を始め組織というのは、この「のりしろ」的業務（助け合い業務）が多く存在すると思う。

「のりしろ」がない組織はバラバラになるし、「のりしろ」がうまく機能している組織は、繋がりがあって温かく、そして強い組織になるのではないかと思います。

AIによる概要にも「構造的な強度を確保し、…耐久性低下を防ぐ」とあり、「のりしろ」があることで強くなることを示している。

であれば、「のりしろ」業務を自主的に行う組織というのは、構造的な強度をもち、耐久性にも優れているのではないかと。

つまるところ、北部中学校は強い組織なのではないかと、勝手な解釈をしている。

再びAIに「強い組織とは？」と聞くと、回答の一つに「自律的に動ける人が多い」とあった。

指示待ちではなく、自分で考えて動く人が多い組織が、強い組織とのこと。

あらためて、自分で考えて学校のために動いてくれる生徒や先生方がいることに感謝したい。

とにかく、朝早くから除雪を行ってくれた皆さん、本当にありがとうございました。